



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 404

März 2025

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0085 兵庫県神戸市中央区八幡通2-1-20 磯上公園内

神戸リガッタ・アンド・アスレティック倶楽部内

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

Bei Kobe Regatta & Athletic Club

In Isogami-Park Yahata-Dori 2-1-20

Chuo-ku Kobe, Japan 〒651-0085

会員懇談会開催のお知らせ

神戸日独協会会長 栢田 義一

厳しく不順であった冬も去り桜の開花が報じられる季節になりました。会員の皆様には如何お過ごしでしょうか

例年3月号会報では「〇〇年度を振り返って」とその年度のご報告と私感を記させていただきました。本年度もとキーボードを前にしましたが、一向に進みません。この5年はコロナ禍とその影響による社会変容のために多難な時代でした。しかし昨年からは日本・ドイツのみならず世界的に政治・経済・社会上をはじめあらゆる分野での混迷が続いています。

況んや、当協会も現在混迷の真ただ中にあります。1年半前に財政の健全化のために「事務所移転」という英断を行いました。家賃などの大幅削減により健全化に向かうものと一時は休心しましたが、個人会員の大幅な減少、講座・教室の大幅な受講者減、催事への会員参加減等々により財政のみならず特に協会活動がこれまでになく極めて弱体化しています。

これらの原因をコロナ禍による社会活動の変容や急速なデジタル発展や会員の老齢化等に求め、対策を講じてきました。しかしそれだけが原因ではないようです。まさに混迷状態です。

そこで、この混迷から脱却する知恵・方策・方法等々を是非とも会員の皆様からいただきたく「会員懇談会」を開催させていただくことにしました。

コロナ禍の2022年6月に事務所移転を控え移転後の協会運営と活動、協会と会員との交流等について「会員懇談会」を開催し、多くの有意義なご意見とご提案をいただくことが出来ました。

この前例に倣い今回も会員皆様のご助力を得てこの混迷した状況を乗り切りたいと願っています。是非ともご参加していただきたく、お願い申し上げます。

日時：2025年4月12日(土) 14:00～16:00

場所：神戸神戸リガッタ・アンド・アスレティック倶楽部会議室

話題：協会運営、今後の活動、協会と会員間及び会員相互間の交流など

申込：事務室へメール(info@jdg-kobe.org)・電話/ファックス(078-230-8150)にて

☆当日は「企画委員会」の定例日ですが、委員会を拡大させていただきます。

予告 2025年度通常総会の開催

2025年度の通常総会を下記のように開催します。

詳しくは会報4月号にてお知らせしますが、ご予約にお入れください。

なお、総会資料は5月上旬に別便にてお送りします。

日 時： 2025年5月17日(土)16:00～17:00

会 場： 神戸リガッタ・アンド・アスレティック倶楽部ホール

総会后、同所にて「会員親睦会」を開催します。

ドイツ語講座・ドイツ文化教室2025年度第 I 期開講

神戸日独協会ドイツ語講座・ドイツ文化教室は2025年度第 I 期を4月1日(火)より開講します。

68年の長い伝統を持つドイツ語講座は、受講者の多用な学習目標やニーズと様々な学習歴などに応じるように多彩なクラスを提供しています。

ドイツ語学習活性化のために従来の「入門→初級→中級」と段階的なクラス編成に加えて、コース群に基づいた多様なカリキュラムを実施しています。

コース群：

1. 基礎コース（ドイツ語はまったく初めての方のクラス）
2. 一般コース（入門から初級後期へと段階的に会話と講読を学ぶコース）
3. テーマコース（テーマに基づいて学ぶ初級後期・中級者向けコース。時事ドイツ語・会話・文学講読など7クラス）
4. 特設コース（高校生のためのドイツ語入門クラス）
5. 特別講座（通常の授業とは異なる観点からドイツ語に関するトピックを取り上げ、ドイツ語に対する関心・興味・理解を深める講座。随時開催）

各コースの授業内容については、同封のパンフレットをご覧ください。

海外来訪者の増加やデジタル技術の発展により国際交流は活発化しています。4月からの万国博覧会の開催により関西にはドイツ語圏の人々も多く来訪するでしょう。

ドイツ語圏の人々との交流、ドイツ語圏への観光、留学等々、ドイツへの思いを強くなさっていることでしょう。その思いを実現させるためにも、ドイツ語を学び始めませんか。また目標に合わせてドイツ語のブラッシュアップをしませんか。

新年度の始めに心機一転して、ドイツ語に挑んで楽しみましょう。奮っての講座へのご参加をお待ちしています。

会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。投稿をお待ちしています。今月は投稿がなく休載します。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで(多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第4月曜までに事務局へ)

ドイツ歌声サロン

この会は、ドイツ歌曲・オペラの名曲、ドイツの流行歌やドイツ映画音楽、ビアソングのみならずドイツの家庭や集会で広く歌われ、日本でも親しみ歌い継がれてきたドイツの愛唱歌をも採り上げています。3ヶ月でドイツ語での歌3曲をマスターします。

4月は3月に引き続き、Schneewaltzer (雪のワルツ)、An die Freude (歓喜の歌、ベートーヴェン交響曲第9番第4楽章で歌われる第一主題)に加えて、Wenn der weiße Flieder wieder blüht (再び白いライラックが咲いたら)を歌います。

講師: 岩島 佳子さん

日時: 4月5日(土) 13:30~15:00

場所: 神戸日独協会教室

参加費: 2000円

参加条件: 神戸日独協会会員以外にも多くの方のご参加をお待ちしています。ドイツ語の歌を主として歌いますが、ドイツ語が初めての方も是非ともご参加ください。

申込: 事務局へメール(info@jdg-kobe.org)・電話/ファックス(078-230-8150)にて。

ハントアルバイトの会(ポーセラーツ)

手仕事による製品作りのお好きな方の「会員サークル ハントアルバイトの会」が活動しています。カルチャー教室などでビーズ&ジュエリー刺繍やポーセラーツ等を学ぶ「ぶどうの木」を主宰している堀田真美子さんを講師としてお招きして、初めて参加の方はマグカップや小皿に、継続参加の方は希望の食器に希望の絵柄で製作します。自分のデザインによる食器作りを楽しみましょう。ご参加をお待ちしています。

4月は休会させていただき、次回は5月に開催します。

講師: 堀田真美子さん

日時: 5月25日(日) 14:00~16:00

場所: 神戸日独協会教室

会費: 1000円 (材料費)

参加条件: 神戸日独協会会員以外にも多くの方のご参加をお待ちしています。

申込: 事務局へメール(info@jdg-kobe.org)・電話/ファックス(078-230-8150)にて。

ドイツ語談話室

第244回ドイツ語談話室

日時：2025年2月15日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：早春2月の風習

今回の司会は原田耕作氏が担当し、日本の2月の風習について話した。2月の伝統的な行事は、2月2日の節分と、翌2月3日の立春である。立春の前日である2月2日の節分には、鬼の持つ邪気を払う習慣があり、鬼打ちの豆まきをして、春が始まる立春を迎える準備をする。

以下に参加者の皆さんの発言を一部紹介する。

—ドイツの春は、カーニバルで始まる。冬の邪気を払い春の豊作を祈願する。仮装行列も繰り出して、お祭り騒ぎとなる。

—早春を楽しみに、2月に日本海側の温泉を訪ねた。雪の露天風呂に入って、温かい温泉と素晴らしい雪景色を楽しんだ。お土産には、いなばの白兔のお菓子を買った。

—早春2月の伝統行事である駅伝大会を楽しみにしている。自身も健康のためランニングをしている。

—日本では2月14日のバレンタインデーにチョコレート贈る習慣があるが、元々は、神戸の洋菓子店モロゾフが1951年に、チョコレートの販売戦略として始めたのが、大成功したものだ。本来の、女性が男性に愛の告白をする日、から、変わって、日本では女性がバレンタインデーに周りの男性にチョコレートを配って(ほとんどは義理チョコ)、貰った男性は、1か月後の3月14日のホワイトデーにお返しをする日に替わっている。

—節分の豆まきだが、一般には、福は内、鬼は外、と叫んで炒った豆を、家の内と家の外に向けてまくが、地方によっては、福は内、鬼も内、と叫んで、鬼を肯定的にとらえる所もあるようだ。

—節分には、健康と長寿を願って、自分の年齢の数だけ、炒った豆を食べる習慣がある。

今後のドイツ語談話室の予定

第246回 2025年4月19日(土) 14-16時 テーマ：エクスポ

Protokoll der 244. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 15. Februar 2025, 14 bis 16 Uhr

Thema: Winterbräuche im Februar

Dieses Mal hatte Herr Kosaku Harada die Gesprächsleitung und erzählte von japanischen Winterbräuchen im Februar. Die traditionellen japanischen Jahresfeiern im Februar sind *Setsubun* und *Risshun* (gemäß dem alten japanischen Kalender der letzte Tag des Winters und der erste Tag des Frühlings). *Setsubun* fällt auf den 2.

Februar. An diesem Tag gibt es den Brauch, Bohnen zu werfen, um damit böse Geister und Dämonen abzuwehren und sich so auf den Frühling vorzubereiten.

Hier einige der Wortmeldungen zum Thema:

-Der Frühling in Deutschland beginnt mit dem Karneval. Auch hier geht es darum, die bösen Geister des Winters zu vertreiben und einen Frühling mit reichen Ernten zu erbitten. Für Feststimmung sorgen Umzüge in vielfältigen Kostümen.

-Eine Teilnehmerin freute sich sehr, dass der Frühling diesmal früh gekommen ist und besuchte im Februar ein Thermalbad auf der Japansee-Seite des Landes. Sie nahm ein Bad in einem heißen Becken in noch verschneiter wunderschöner Landschaft. Als Souvenir kaufte sie Süßigkeiten, die sich auf die alte Geschichte des Kaninchens von Inaba bezogen.

-Eine andere Teilnehmerin freut sich darauf, den Staffellauf zu sehen, der traditionellerweise zum Frühjahrsbeginn im Februar abgehalten wird. Sie läuft auch immer, um sich gesund zu halten.

-In Japan gibt es am Valentinstag, also dem 14. Februar, den Brauch, Pralinen zu verschenken. Dieser Brauch wurde ursprünglich 1951 von Morozoff, einer Konditorei in Kobe, als Verkaufsstrategie ins Leben gerufen und wurde ein großer Erfolg. Der Valentinstag als Tag, an dem Männer Frauen ihre Liebe gestehen, wurde in Japan zu einem Tag, an dem Frauen Männern Pralinen schenken, und dafür einen Monat später am sogenannten „Weißen Tag“, dem 14. März, ein Gegengeschenk erhalten.

-Zu *Setsubun* werfen die Leute im Haus sowie bisweilen auch außerhalb des Hauses geröstete Bohnen und rufen dazu „*Fuku wa uchi, Oni wa soto*“, („Glück im Haus, Dämonen hinaus!“). In einigen Regionen wird auch Dämonen eine positive Bedeutung zugemessen und daher „*Fuku wa Uchi, Oni mo Uchi*“ (Glück im Haus, auch Dämonen im Haus“) gerufen.

-Dem Brauchtum zufolge, soll die Anzahl der Bohnen, die man zu *Setsubun* isst, der Anzahl der eigenen Lebensjahre entsprechen. Man erhofft sich dadurch Gesundheit und ein langes Leben.

Nächstes Treffen:

Samstag, 19. April 2025, 14 bis 16 Uhr. Thema: Die Weltausstellung in Osaka

4月の企画委員会開催のお知らせ

4月の委員会は、拡大して「会員懇談会」として開催します。

詳しくは、本誌1頁をご覧ください。

事務室からのお知らせ

会報印刷・発送ボランティア募集

次回の印刷と発送は4月25日(金)を予定しています。ご協力をお願いします。

印刷: kinko's 三宮店(神戸市中央区雲井通 4-2-2 マークラー神戸ビル 1F) 10::30~

発送: 神戸日独協会事務室にて、12:00~

お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい(TEL 078-230-8150)。

行事等の写真について

会報では輪転機印刷のため写真等の掲載は略させていただきます。協会ホームページ及びSNSに掲載していますので、ぜひご覧ください。

 ホームページ Homepage	 インスタグラム Instagram	 X Twitter
---	---	---

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
4月5日(土) 13:30~15:00	ドイツ歌声サロン	神戸日独協会教室	当日参加可
4月12日(土) 14:00~16:00	会員懇談会	神戸レガッタ倶楽部 会議室	当日参加可
4月19日(土) 14:00~16:00	ドイツ語談話室	神戸日独協会会議室	当日参加可
5月17日(土) 16:00~17:00	通常総会	神戸レガッタ倶楽部 ホール	当日参加可